

# 平成27年度 キャリア教育推進地域事業推進校実施報告書

研究テーマ

学校名：須崎市立浦ノ内中学校

## 一人ひとりが大切にされる授業づくり

キャリア教育 ～思考力・判断力・表現力の育成から地域貢献へ～

### 1. 取組内容

※研究した内容が分かるよう、研究方法、研究の実施体制、取組なども含めて具体的に記載すること。 ※図や写真を入れることも可。 ※様式や枚数については自由。

#### 1. 本校のキャリア教育の理念

日本は20世紀末のバブル崩壊や近年のIT革命に直面し、社会構造は大きく変化してきました。それに伴ってフリーターやニートの課題も現れました。文部科学省や厚生労働省、経済産業省、内閣府などの関係府省で連携強化を図り、2003年によりやく将来を担う若者たちに勤労観、職業観を育み、自立できる能力をつけることを目的として「キャリア教育」という構想を出されました。その内容は、これまでの進路指導ではなく若者たちの将来への自己実現（進路保障）に踏み込んでいるところは評価できます。また学校教育の使命は、キャリアプログラムとして自己表現することが教育にも貢献することだとして恒常的な「学びのシステム」として積みあげていかなければならないという提起でした。キャリア教育で求められている能力とは、次の4つの能力を育成することが目標とされました。

- (1) 人間関係形成能力 — 自他の理解能力とコミュニケーション能力
- (2) 情報活用能力 — 情報収集・探索能力と職業理解能力
- (3) 将来設計能力 — 役割把握・認識能力と計画実行能力
- (4) 意志決定能力 — 選択能力と課題解決能力

本校のキャリア教育は、こうした能力を具体的にそれぞれ(1)仲間づくり (2)授業改革 (3)(4)進路保障としてまとめてきました。

#### 2. 具体的な研究内容

つきたい力 … 聞きとる力（リサーチ） 分析する力（アナライズ）  
話す力（プレゼンテーション）

##### ①仲間づくりの見直し

仲間の意味の共通認識から人権教育や道徳教育の教育内容を見直す。

##### ②授業改善：探求型授業「教えて考える授業」への変革、学校行事とキャリア教育の充実

3年間の特別活動（学級活動、学校行事）の見直しから各教科との関わりを見直す。

##### ③地域貢献できる心の育成…ボランティア活動、地震・津波対応

地震津波等の緊急時への対応や地域行事への参加、ボランティア活動の充実

##### ④体験活動の充実と活発化

外部の人的資源の活用、体験活動の充実

##### ⑤3年間の全体像 「浦ノ内ヒューマンプラン」の見直し

3年をスパンとしたキャリア教育の「めざす生徒像」全体構造図の見直し

##### ⑥発表報告会、広報活動

浦中スクールナビ（平成27年度版）、家庭学習のすすめ、各種たよりや案内

### 3. 研究計画 27年度

(4月～8月)

- 職員会 ・授業研究（講師招聘）本市キャリア教育と今日的課題  
須崎市教育委員会
- 体験活動 1 ・修学旅行、仲間合宿「仲間づくり」
- 職員会 ・研究内容、研修計画の確認
- 体験活動 2 ・地域を知ろう「わくチャレ」
- 広報活動 ・スクールナビ（27年度版）配布
- 体験活動 3 ・地域貢献「校区の地場産業」（リサーチ）
- 体験活動 4 ・地域の産業（地域の人に学ぶ）講師招聘
- 職員会 ・実践のまとめ原稿

(9月～12月)

- 職員会 ・基礎データ分析、研修計画のフォローアップ
- 体験活動 5 ・「ようこそ先輩」高校説明会
- 体験活動 6 ・専門学校・専修学校ってどんなところ？
- 体験活動 7 ・高校体験入学
- 広報活動 ・「家庭学習のすすめ」3版 配布
- 体験活動 8 ・「浦ノ内のスペシャリスト」（卒業生）
- 体験学習 9 ・「仲間づくり」（幼児教育）保育合同避難訓練
- 体験学習 10 ・地域福祉（高齢者福祉）
- 体験学習 11 ・表現力「自分の生き方」（体験学習発表会）
- 職員会 ・キャリア教育 生活意識アンケート分析

(1月～3月)

- 職員会 ・総括、次年度への方向づけ

### 4. 評価基準

- ・めざす生徒像を構造化することができたか
- ・将来に夢や希望をあたえることができたか
- ・地域貢献する心が育成できたか
- ・保護者や地域への広報活動ができたか

## 2. 成果

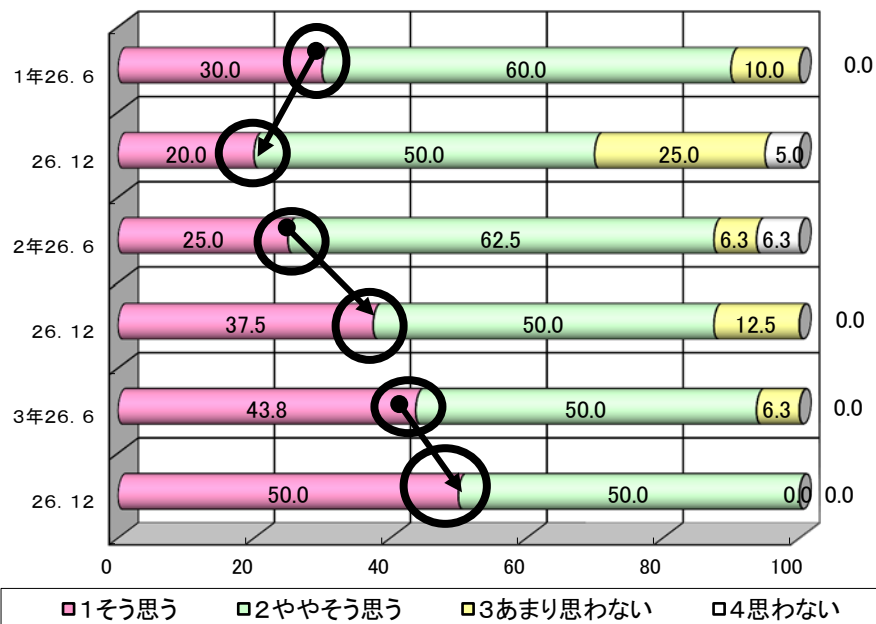
※児童生徒の学力の状況を把握するデータ、全国学力・学習状況調査、児童生徒の意識調査（県や推進地域が作成した指標に基づく調査）、学校評価等の各種データをもとに成果の検証を行うこと。  
（実施した内容については別添資料にて添付する）

次ページのグラフは、平成26年度の学校評価で生徒アンケート調査（6月と11月実施）の本校生徒の結果である。

1年生は、これからの学習を通して「自分らしい生き方」を考える機会を多くとりたいと考えている。上学年になればなるほど自己目標について「そう思う」が増加し「思わない」が減少していることが分かる。

本校は、義務教育9年間の出口として、すべての生徒が将来への夢や希望をもち自己実現に向かって意欲的に取り組むことが学力進路保障につながるものと考えている。

グラフ3 あなたは目標を持って学校生活を送っていますか



### 3. 課題とその改善策

※課題については、研究を通じて明らかとなった課題と、今後その課題についてどのように対応していくかを記入すること。

- ①生活習慣の確立のうち、朝食を食べて学校に登校している生徒は100%である。しかしながら、食事の中身（栄養の偏り）や孤食になっていないか、「今日は時間がなかったので用意してくれていたけど食べてない」「自分で作っている。今日は菓子パンで済ませた」という生徒の声を聞くたびに気になる場所である。十分な栄養を摂取していないことや睡眠時間は趣味や嗜好（携帯、メール等）のため睡眠時間が短いことを理由に体調不良を訴える生徒もいる。生活習慣チェックカードや生活アンケート等でもっと詳しいアンケート調査が必要である。これからも生活習慣の確立と礼儀、挨拶やしなやかな体づくり、豊かな人間関係づくりを家庭にも協力要請し、啓発活動を推進する。
- ②自己の将来設計（ライフスタイル）や「人間としての生き方」「自分らしい生き方」についての自覚を深める。

#### 将来の自分像

自己概念、立場の自覚、「命の大切さ」「自分の誇り」について人権教育と道徳教育を全教育活動を通してさらに推進していきたい。

また、人間関係と仲間づくりについて、学級活動や学校行事、特別活動等の具体的な場面で指導する。

- ③学力向上については、「探求型教えて考えさせる授業の授業改革」、キャリア教育の視点を通して「学習への意欲向上」ができると考えている。
  - ・学習にいきずまったり、躓いている生徒はどんな生徒か（生活背景を含めて）理解する。
  - ・生徒や保護者の「想い」を受け止め「願い」を共有する場面を設定する。
  - ・様々な体験や学習を通して「自分の生き方」が追求でき、仲間に想いを語れる生徒を育成する。

- ・「共に生きる」仲間としてそれぞれの夢が自己実現し地域・社会貢献やできる力を育成する。
- ・地域の将来像、望ましい社会を創造し、自分のできることを探求する。
- ・保小中連携教育の取り組みをさらに推進し、15年間のスパンで園児・児童・生徒、その保護者同士の仲間づくりを進める。

#### 4. 具体的な実践事例

##### 浦ノ内校区地域連携教育

ともに生きる — つながりを深めよう —



##### 浦ノ内中学校登校日 実施要項（抜粋）

1. 目的：これまでの夏期研修は「平和学習」として反戦・平和について学んできた。  
今年度は「地域で生きる 地域でともに生きる」ことを主眼とした地域の活動、体験学習を研修の目的とした。
2. テーマ： 『地域でともに生きる～地域貢献できる生徒』
3. 場 所 浦ノ内公民館
4. (省略)
5. 内容
  - ①講演 りぐる浦ノ内の活動（30分） 「ミョウガ」のできるまで（20分）
  - ②「コース別体験学習」～保育・福祉・食育～ 11：30まで
 

1年…高齢者体験	2年…保育体験	3年…非常食づくり(すいとん)
場所 老人デイサービスセンターよこなみ	浦ノ内保育園	浦ノ内公民館調理室
6. その他各体験場所は快く承諾してくれています。すいとん作りは地域の方が協力してくれます。 ※「すいとん」は避難場所の非常食用として考えています

## 7. 資料

「ここも戦場だった」高知大空襲

1945（昭和20）年7月3日午後4時23分（日本時間）、マリアナ諸島のグアム・サイパン・テニアン島の3島4基地から、高知への爆撃のため501機のB-29爆撃機が出撃し、硫黄島を経由して、高知には翌日未明、120機のB-29が高知市上空に飛来。空襲の凄まじさは、死者401人、罹災家屋約12,000戸であったことから想像することができる。須崎市は？ 浦ノ内は？ 調べてみよう 聞き取ってレポートにしよう

## キャリア教育レポート

平成27年8月6日（木）、公民館で浦ノ内中学校生徒の登校日で体験学習があり、少しの間でしたが取材をさせていただきました。今年度のテーマ『地域でともに生きる～地域貢献できる生徒～』をもとに、前半は浦ノ内地域で活躍をしている“りぐる浦ノ内”の活動報告、後半は各学年がそれぞれの事業所に分かれて体験活動をするという内容でした。

「りぐる浦ノ内」（浦ノ内壮年部）から森田泰明会長の挨拶のあと、市内で活躍をされている地域おこし協力隊の上野伊与さんが活動報告をしてくれました。上野さんは、「りぐる浦ノ内」を立ち上げた1人です。「りぐる浦ノ内」が出来たきっかけや活動内容、浦ノ内の外から見た浦ノ内の良さ、みんなにこんな大人になってほしいなどの話をしていただき、生徒たちは真剣に話を聞きメモを取っていました。



その後、各学年それぞれの事業所に分かれて体験活動を行いました。

### 1年生 高齢者福祉体験

1年生の体験活動の場所は「デイサービス横浪」でした。来所していた方とぬりえを楽しんだり、運動のお手伝いをしたりしていました。来られていた方からも「どこから来た？」「勉強は難しい？」などの質問があり、「孫が遊びに来てくれたみたい」と、とても喜んでいました。数か月前までは小学生だったと思えないほどしっかりしていて、積極的に自分から交流し、中学生らしさが垣間見えていました。



## 2年生 保育体験 合同避難訓練

2年生は、園児と一緒に避難訓練をするという体験でした。一緒に遊んでいると、サイレンの音が鳴り響き、避難訓練が始まりました。小さい園児はサイレンの音にびっくりし、泣いている園児もいましたが、2年生が「大丈夫で」と声掛けをしている姿もありました。

この辺りの避難場所はシイノキワダという所であり途中から急こう配な坂になっています。



保育士さんが「避難の際、乳母車で坂を上がるのが大変だけど、今日は男の子と一緒に押しに来てくれて、大変助かった」と言っていました。平日の昼間に地震が起きた場合は、地域の方や園児と一緒に避難をしなければいけません。

こうして日頃から合同訓練をして、どういう時に助け合わなくてはいけないかを考える貴重な体験となりました。

### 3年生 平和学習「すいとん作り」

3年生は地域の方と一緒に、すいとん作りの体験をしました。3年生は毎年自分たちで作った「すいとん」を全校生徒で食べながら平和学習（最近では避難場所の非常食として）をするというのが恒例となっているそうです。

具材は「りゅうきゅう」と「小麦粉の団子」ですが、当時に比べると、だしや醤油などで味つけがしてあり、おいしくなっているそうです。各班に分かれ、それぞれに真剣な顔をして作っていましたが、最後は団子の大きさがさまざまになっていて、あちらこちらで笑い声が上がっていました。



最後に…

浦ノ内に住む中学生として、「自分たちに出来る地域貢献とは何か」を考える体験学習となっていました。りぐるの会長の森田さんが「浦ノ内から外に出ている人が帰って来たい浦ノ内にしたい」と話をしてくれましたが、この体験学習をもとに、将来“りぐる浦ノ内”で一緒に活動をし、浦ノ内を盛り上げてくれる生徒が1人でもいて欲しいこと願って報告とさせていただきます。

写真・文責：浦ノ内小学校 学校支援推進員 山本由美（浦ノ内中学校保護者）

